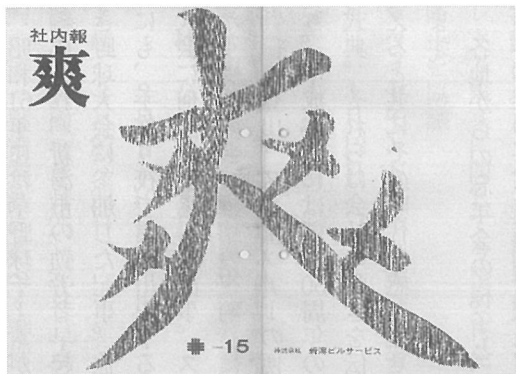


今号表紙は57年前、昭和42年に創刊された社内報創刊号の表紙です。絵は東京紀尾井町にできたホテルニューオータニです。

ニューオータニは1964年の東京オリンピックに間に合わせるため、突貫工事で作られたもので、わずか17か月で完成し、開幕直前の9月に開業しています。特徴のある最上部の丸い部分は、回転する展望レストランで、オーナーの大谷米太郎が富士山を外国人に見せようと作ったものです。客室数1058室で日本を代表するホテルとして作られました。工期を短くするため、ユニットバス、カーテンウォール工法が取り入れられたそうです。

それまで、日本で一番高い建物は国会議事堂で65mでした。それを抜いて73m17階です。日本の高層ビルの草分けともいえるニューオータニを創刊号表紙に描く事で、新潟のビルサービスの草分けとしての意気込みが感じられます。



次号
社内報 才号

| | | |
|-------------------|------|----|
| 発行にあたって | 社 長 | 1 |
| 昔をしのび | | 2 |
| 十月の行事報告 | | 4 |
| 才一回新入社員講習会実施される | | 5 |
| 人事往来 | | 8 |
| 新刊ビルサービスクラウド常駐人員名 | 鈴木真代 | 9 |
| ビル管理業のつらさ | 岡谷吉郎 | 11 |
| 北から南へ | | 13 |
| 親和会旅行記 | 渡辺工司 | 15 |
| 投稿 | | 17 |
| 編集部より | | 22 |

この社内報を通じて皆さんのスクラムがますます、かたくなり仕事を通し和気あいあいの内に益々発展の道を歩みたいと思います。

以上

上がその目次。手書きで、青やきの複写機で印刷した40部は全てが手作りでした。当時の現場常駐人員は115名、現場で回覧したが回ってこないと苦情があり、3号からは印刷会社に発注し増刷。当時、頁数に定めはなく、40頁を超える回もありました。内容は現在もある現場紹介や、人事往来などの他、従業員の皆さんから募った投稿記事も数多くありました。

「爽」(さわやか)の名称が付いたのは昭和46年夏の第15号。サンケイ新聞新潟支局の方、その他多方面の有識者の方のアドバイスをいただき決定しました。15号の中に「これから遠い道のりを、くじけず、泣きごとを云わず、さわやかな足どりで、颯爽と前進してゆきたいと思います。皆さんも一緒に颯爽と歩きましょう。」とあります。表紙は表裏に思い切りのいい爽の文字が踊り、カラーは水色の色彩がイメージそのままです。

この15号の表紙、さわやかな文字が現在と違うことにお気づきでしょうか。漢字で書くと、カタカナの「メ」の形が4つありますが、現在発行されているものは「メ」ではなく「人」になっています。人が大となっています。22号からその表記になりました。

その22号から26号までは新聞形式で作られました。A3用紙の大きさ、イラストや写真を多く使い表紙がない分見出しのインパクトが大きいです。

11 SAWAYAKA 昭和49年11月1日 第23号

爽
ビルサービスクラウド常駐人員名

営業管理部方針決定される……
**最大の危機を乗り越え
ほんもの会社になろう!!**

ヨーロッパ視察旅行記より
北欧のビルメン業 (1)

社長

AB BLIFA AB BLIFA

（入力ユーザ）

10月の行事ニュース

専務

この形になった理由として、事業拡大で多忙から発行がままならなかったからだそうです。しかし定期的にはできないが不

定期でも会社の実情を伝えるべく、このような形にしたとあります。昭和48年から53年の5年間で発行されたのはその4号で

した。今となっては他と違いレア感があります。その後、27号からは現在と同じ大きさでまた冊子形となりました。